

九州伝産の旅 vol.4

2022 年

伊万里・有田焼 李荘窯業所

<窯元紹介>

初代 寺内信一（号 半月）は、美術彫刻を学び、有田焼の陶祖 李参平の旧住居跡に李荘工房を構える。その後 社名を改め、家庭用・営業用食器に転向し、現在に至る。

いまり・ありたやき りそうがま 伊万里・有田焼 李荘窯

伝統とデジタルの融合で、有田焼の 新たな可能性を切り拓く

有田焼の陶祖 李参平の旧住居跡に工房を構え、伝統的な手書きの技術と現代のデジタル技術の融合により有田焼の改革に取り組んでいらっしゃる、李荘窯の4代目 寺内信二さんにお話を伺いました。



寺内信二さん



職人さんによる丁寧な手作業



モダンな食器

■伊万里・有田焼の歴史・特徴

17世紀初頭、朝鮮人陶工・初代金ヶ江三兵衛（通称：李参平）らによって有田の泉山で陶石が発見されたことにより、有田で産業としての磁器の製造が始まります。当時は伊万里港から積み出しされていたため、「伊万里焼」とも呼ばれました。日本で初めて磁器が焼かれた産地として、400年間食器や美術工芸品を中心としたものづくりを続けています。白く美しい磁肌や華やかな絵付け、使いやすい丈夫さを考慮した食器が特徴です。

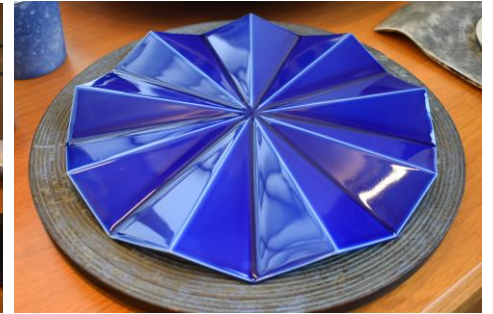
※有田町観光協会 HP より引用・編集。

Q.「李荘窯」の特徴は？

李荘窯では、染付をベースに手書きの絵付け等を用いた伝統的な手法で作る商品と、デジタル技術を活用した商品が共存しているのが特徴です。有田焼の陶祖とされる李参平の住居跡に創業した李荘窯には400年前の陶片があり、藍色の染付が色あせることなくきれいに残っています。これは今後も継承していきたいと思っています。



伝統的な商品



デジタル技術を使った商品



敷地から見つかった 400 年前の陶片

Q.家業を継がれてどのような苦労がありましたか？

大学卒業後は商社に勤めましたが、30年前に有田に戻り、流通システムをはじめ、先代が築いてきたものを壊すところから始まりました。有田焼は分業体制が取られていることもあり、当時窯元が直接販売することはなく、商社を通じてのみの販売でした。現在当窯ではレストランや百貨店などの直接販売の割合が増えています。ここまでくには様々な苦労がありましたが、改革にあたっては、商社で勤めた経験が活かされたように思います。

Q.デジタル技術を導入したきっかけは？

海外展開がきっかけです。まだ李荘窯としてブランドが確立していない頃、フランスのリヨンでシラ国際外食産業見本市があり、世界中のトップシェフとのネットワークを構築しました。すぐに共同開発をすることになりましたが、図案化や試作品等のやりとりにかかることで、先方の熱意も冷めてしまい、製品化に至らないこともありました。そこで、2017年に有田焼の7窯元が共同で、新たなデジタル技術に取り組む株式会社 ARITA PLUS（寺内社長が代表を兼務）を立ち上げました。デジタル人材を活用しながら、3DのCG図案をLINE・メール等で顧客へ早期に送信することで、修正やバリエーション展開等の提案が簡単にできるほか、完成後の手戻りもほとんどなくなりました。また、ARITA PLUSの保有

機械は参画している窯元共同で活用しています。窯元は互いに技術を隠したがる傾向があり、こうして窯元が協力し合うことは昔では到底考えられないことでした。

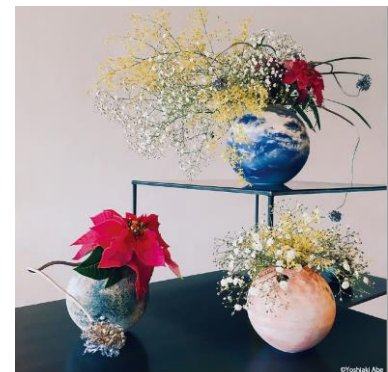


ARITA PLUS の外観と共有のマシニングセンタ

Q.最近の取り組みを教えてください。

ECサイトを立ち上げました。まだまだこれからの状況ですが、今後はECサイトでしか購入できない商品をアップし、海外を含め様々なジャンルのアーティストとコラボすることで、オンライン美術館のようなイメージで構成できればと考えています。

食器以外の分野への展開としては、建築用のタイルとしての導入事例も増えてきています。また、最近では、佐賀大学の仲介で草月流の華道家と有田焼窯元のコラボ作品として華道用花器を製作しました。



Q.今後の展開は？

有田焼の器の上で宇宙食を楽しんでもらうことを目標に、宇宙器の実現化を目指して企画・開発に取り組んでいます。有田焼を宇宙空間に飛ばす実験や、隕石の活用なども検討しています（笑）

また、未利用資源の活用にも取り組んでいきたいです。有田焼は天草陶石を使っていますが、4等級以下の石は使っていません。今後は4等級以下の石も白磁以外の製品等にうまく活用していけたらと思っています。また、有田の泉山でも原材料が取れますが、色々と課題があり、現状使われていません。今後、泉山の原材料の活用についても調査を進めていく予定です。

あと、陶芸家としては新たな文様を生み出すことにもチャレンジしていきたいですね。

profile

窯元名

有限会社李荘窯業所

場所

佐賀県西松浦郡有田町白川 1-4-20

電話

0955-42-2438

ショールーム

8 : 30 ~ 17 : 00

※土日祝はお問合わせ下さい

Web サイト

<http://www.risogama.jp>

Q.「李荘窯」として大切にしていることを教えてください。

窯元の仕事は人との関係で成り立っています。商品を手にとった方が喜んでいる顔を見るのは、やはり嬉しいものです。時代時代で、皆さんに喜んでもらえるものづくりをしたいです。

「焼物＝食器」に固執しては成長はないと思っています。今やれることとして、後世のために新しい市場を少しでも多く切り開いていければと思います。



Q.有田焼、有田町の魅力を教えてください。

有田焼の魅力は「多様性」だと思います。素材の可能性を活かして、世界のニーズに応えることができると思います。

また、有田町は自然と調和しているところが魅力だと思います。電柱の地中化など、町の整備も進んできています。良い意味でまだまだ手つかずの部分が多く、可能性を秘めていると思います。将来的には世界中の人を有田に呼び込めるような町にしていきたいですね。



李荘窯の看板商品「おせち重」

最新のデジタル技術を活用しながらも、一方で工房では職人さんによる絵付け等丁寧な手作業がなされているギャップにとっても驚きました。有田に戻られた頃、古伊万里の素晴らしさに魅了されたという寺内社長。商社での経験も活かし、後世に残していくべきもの、変えていくべきものを客観的に峻別しながら、今後も有田焼の新たな一面を見せてくれそうです。